



[写真左] 「入江一子シルクロード記念館」を訪れた日野原重明先生（現在101歳）

[写真右上] 2009年12月、ニューヨークの日本クラブで開催された「入江一子個展」会場

若いときより若々しい
絵が描けます！
入江一子（現在96歳）

世界へ躍進する女流展

入江一子

女流画家協会は、戦後女流軽視の画壇の風潮に反発して、三岸節子、森田元子先生を中心に11名の発起人で創立。全画壇の常連を勧誘し、73名で第1回展を開催しました。マリー・ローランサン、ブブノワなど11名の特別陳列をして、世界の女流画家とも交流がありました。

その後も、ニューヨーク・リバーサイド美術館で日米女流交歓展、パリ近代美術館で国際女流美術家クラブ展、カリフォルニア州パサディナで日米女流合同展などを開催。2006年、2008年にはニューヨークで、女流委員、会員有志による日本の女流画家展を開催し、女流展は世界を舞台に活躍してきました。

あのとき

吉江麗子

幼児期、昭和の初めの事だ。父に誘われて東京駅前丸ビルの屋上へ。ドイツの飛行船が来るといふ。姉、兄と私、じっと空を見上げていた。ゆっくりと、ゆっくりと動いてきたもの、大きな船のような形、それがツェッペリン伯号だった。今もまだ宙へのあこがれ深く、あれが私の仕事の原点だったのかもしれない。穏やかな思い出の昭和は、これで終り。次は〈戦争〉というグレイゾーンへひた走る。きらきらと残る、私の心の中のオアシス。

そして2012年、私の心はやはり宙に向かっている。花たちをのせた自分勝手なフォルムのバルーン。夢はまだまだ続きそう……。

2012年1月、日本橋三越本店で「ニューヨーク個展凱旋記念展」を開催しましたが、このご縁で日野原先生とのギャラリートークが実現しました。前例のないほど多くの方々が参加し会場が盛り上がり、あらためて先生の人気ぶりにおどろきました。対談で「先生は、私の大目標です。気力をいただきました」と私が感謝の言葉を申し上げると、「まだまだ95歳なので、100歳はゴールではなく関所だよ」とおっしゃり、「次回は100歳記念の展覧会をやりましょう」と激励していただきました。

これからも、女流画家の皆さんが世界にはばたく作品を期待し、私も生き残りの一人としてがんばって行きたいと思います。



2012年
花たちの遊覧飛行
153×169×20